

審判員派遣報告書

派遣事業名	全国中学校バスケットボール大会 群馬大会	派遣期日	令和3年8月18日～8月21日
報告者	藤田公介	派遣先	群馬県 高崎市

1 大会概要

大会名称	同上	大会期間	令和3年8月19日～8月21日
大会概要	各ブロックの代表が集まり、予選リーグを実施。各リーグ1,2位が決勝トーナメントに進出し、日本一を決定する大会。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年8月19日	会場	高崎アリーナ
審判クルー	CC:藤田公介 U1:尾方慎太郎（奈良） U2:長谷川雄是（北海道）		
担当試合	実践学園（関東）VS 布水（北信越）		
試合内容	外角の得点力が上回る布水が着実に得点を重ね、勝利。		

日程	令和3年8月20日	会場	高崎アリーナ
審判クルー	CC:藤田公介 U1:榎本麻衣（長野） U2:末永千鶴（宮城）		
担当試合	女子 準々決勝 弥富北（東海）VS 菊陵（九州）		
試合内容	どちらもスピード、得点力が高く、展開の速い試合となった。終始接戦であり、最後までどちらが勝つかは分からない中、弥富北のミスが最後に続き、菊陵の勝利。		

3 大会(研修会)を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

今回、群馬全中に参加して改めて強く感じたことは「具体化の重要性」です。1つの物事について、どれだけ具体的に考え、取り組むことができるか。つまり、漠然とした、曖昧な物事をどこまで細分化し、実践レベルにまで落とし込めるか。全国大会に参加し、この重要性を強く感じたと同時に、県内のIH研修生を始め、多くの審判員の方々に意識して取り組んで欲しい内容だと思いました。

1. 具体的に考える重要性

群馬全中のテーマは新潟 IH と同様、「処置ミス0、トラベリング、FUL、RFG（インテグリティ含む）」でした。つまり、JBAはこの4項目において特に意識し、取り組んで欲しいと考えています

普段の県内のPGCでもこれらの項目については話題に出ていると思います。しかし、「処置ミスが無いように気を付けよう」や「FULでは、プライマリが目を切らずに最後までしっかりと見よう」という会話で終わっている気がします。「気を付けよう・しっかりと見よう」という言葉は便利な反面、とても抽象的で具体性がありません。

具体性が無いまま試合に臨んでしまうと、結局ポストカンファレンスも具体性の無いものになってしまい、次への課題設定も曖昧なもので終わります。

例えば「処置ミス0」について、どのような処置のミスが考えられるのか。そのために個人として取り組めること、またクルーとして取り組めることがあると思います。また、TOとの協力において、TOミーティングでどのようなことを伝え、オフィシャルズとしてどういう約束事のもとで試合を進めるのか。1つ1つ、自分の中で細かくルール作りをしていくことは大変な作業ですが、そうすることでオンザコートでの自分の考えがより明確になり、どう行動すればいいのかがわかってくると思います。

2. CCMを発揮する

CCMという言葉もよくPGCで耳にします。しかし、これも抽象的な言葉です。皆さんにとってのCCMとはどのようなものでしょうか。何をすることでCCMを発揮したことになるのでしょうか。

「声を出す」というのもCCMの1つだと思います。しかし、どのような場面で、どのような声を、誰のために出すのか。具体的な場面をイメージすることで、それが実践に繋がってくるのかなと思います。ただ「声を使おう」で終わってしまっただけでは、とても勿体ないです。

例えば、次のような場面がありました。

センターライン付近で審判Aがトラベリングを吹きました。審判Bはスローインの再開場所を審判Aとアイコンタクトを取り確認しました。審判Aはフロントを示したのでそこから再開しようとする、審判Cが寄ってきてバックコートだと伝えにきました。審判Bは審判A,Cを集め情報を確認し、フロントコートから再開しました。

本部講師の方から、「センターライン左右2m付近で判定をした時は、次の再開がどちらのコートなのかを声とジェスチャーを使って大きくデリバリーする。それもCCMの示し方です。」というアドバイスを頂きました。

群馬全中に参加し、「具体化の重要性」を学んだにも関わらず、この報告書が抽象的な内容になってしまい、申し訳ありません。皆様が何か少し深く考えてみるきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、今大会に派遣して頂きまして、香川県バスケットボール協会・審判委員会の皆様には感謝申し上げます。今後とも、ご指導宜しくお願い致します。